

# 平成25年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大 阪 市 立 佃 中 学 校

生徒数

161

## 平均正答率（％）

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	74.7	61.6	61.8	40.5
大阪市	72.2	61.0	59.6	37.1
全国	76.4	67.4	63.7	41.5

## 平均無解答率（％）

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	2.1	2.9	4.3	13.1
大阪市	3.6	4.7	7.2	20.9
全国	2.4	2.8	5.3	16.7

## 結果の概要

平均正答率を見ると全国平均と比べ低い結果となっている。特に国語Bでは差が大きく、言語力の活用の問題があると考えられる。それに対し、数学は、比較的全国平均に近い。数学Bの応用力は全国平均に近い。一年生の時から毎授業後に授業内容の独自宿題プリントを配布し、家庭学習の習慣づけと基礎基本の定着に力を入れてきた。さらに、本校生の特徴として平均無回答率は全国平均よりも良い結果になっており、あきらめず最後まで取り組もうとする傾向が表れている。

## これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

ベル着・あいさつ・忘れ物チェック・私語の指導など授業規律の定着に取り組んできた。現在、各学年とも落ち着いた教室の中で集中して授業を受けている。  
基礎基本の定着のために、朝学習や放課後の補習・長期休業中の補習学習会に取り組んでいる。基礎的な学力に不安がある生徒に寄り添い、励まし、最後まであきらめないでやり遂げせることで、達成感を得、自信を持ち自ら学ぶ前向きな気持ちを醸成している。  
教員に気軽に質問できる雰囲気があり、生徒の疑問に丁寧に答えている。定期テスト前には、予想問題を生徒が作り、学年・学級全員で学習している。自主的に学習するだけでなく、仲間、クラス全体で助け合い学びあう集団作りに取り組んでいる。  
今後取り組むべき課題としては、国語に関しては、読むことや言語文化に関する項目が他の項目に比べて優れているので読書する機会と量を増やすことに取り組む。毎日の学校図書館の開館や読み聞かせの取り組み、読書タイムの設定、本の紹介など図書館の活性化を図り、まず読書を身近に感じる環境を作る。また、家庭での読書習慣の定着のために貸出図書の充実や学級図書館の設置を図る。また、数学に関しては、これまで通り基本的事項の定着のための宿題プリントの継続と家庭学習の習慣づけを図る。さらに、習熟度別少人数学習により個々の到達度に応じた課題を与え、興味関心を引きながらショートステップの課題でできる達成感を得るよう工夫していく。

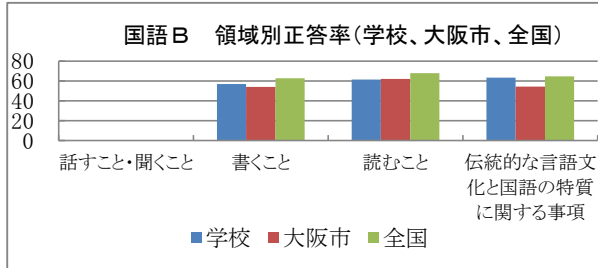
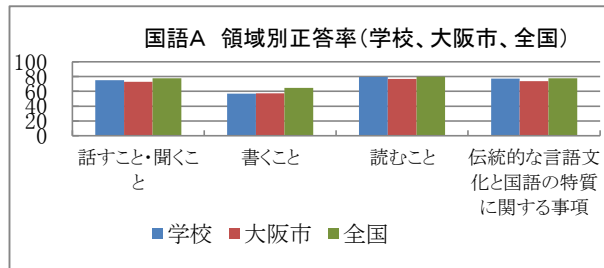
## 【国語】

### 結果の概要

国語Aの基礎的な読むことや国語ABの伝統的な言語文化・国語の特質に関する事項では、全国の平均正答率に差がない。しかし、話すこと・聞くことのコミュニケーション能力や書くことの表現力・考えをまとめる能力は、平均正答率が低い。生徒質問紙での結果を見ると国語に関して自信がなく苦手意識が強い傾向がみられる。

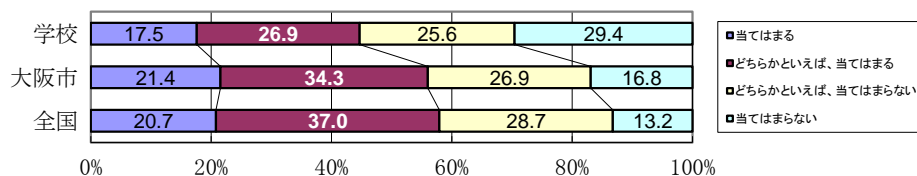
A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	4	75.2	73.1	77.6
	書くこと	4	56.7	57.3	64.5
	読むこと	6	79.5	76.8	80.0
	伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項	18	77.1	73.9	77.5

B 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	0	—	—	—
	書くこと	3	56.9	54.0	62.7
	読むこと	8	61.3	61.9	67.8
	伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項	1	63.4	54.2	64.6

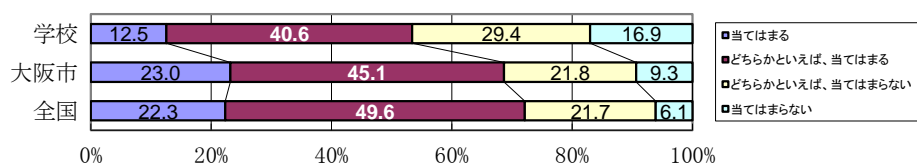


### 国語に関する「生徒質問紙」

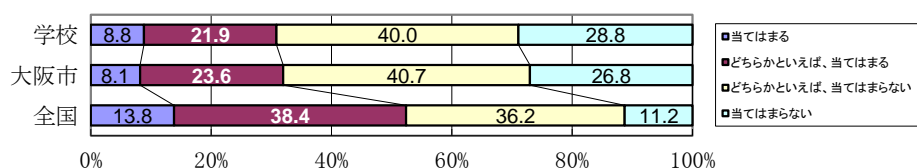
I 53 II 52 III 63
国語の勉強は好きですか



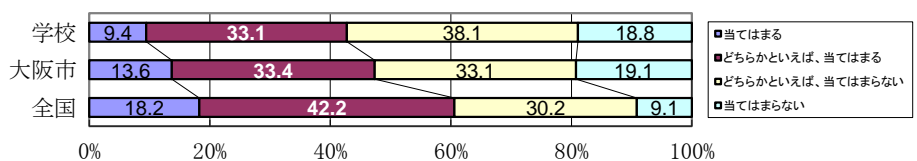
I 55 II 54 III 65
国語の授業の内容はよく分かりますか



I 58 II 57 III 68
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



I 60 II 59 III 70
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



### 成果と課題

漢字検定の実施や暗唱指導・学校図書館の活用による読書活動の推進により、基本的な読む力や伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項では全国の平均正答率と変わらない。しかし、基本的な言語力を活用して、資料を参考にして書いてまとめたり、状況や相手の立場に立って表現したりすることが苦手である。また、国語に自信がなく、苦手意識を持つ生徒が多い。

### 今後の取組

第1に国語を好きになってほしい。そのため、多様な表現や場に応じた適切な表現に触れるために読書の量を増やすことが必要である。学校図書館の活性化をこれまで以上に進めていき、読書への興味を持てるよう推進する。それらの表現の中からその場に応じた表現を選択し、組合せ、個性ある文章表現ができるように指導する。各行事での作文指導を取組み、優れた作品を表 彰し、発表させることで言語力の向上を図る。

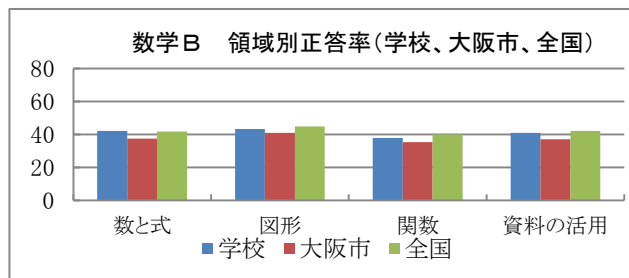
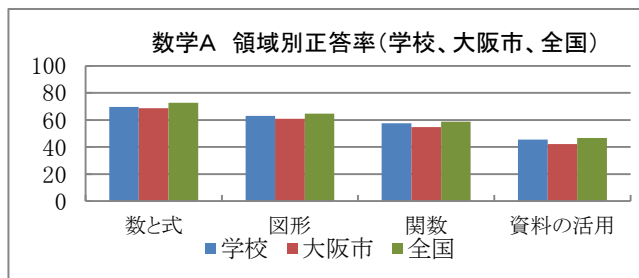
## 【数学】

### 結果の概要

全体的に全国の平均正答率より低い、数学Bの数と式では上回っている。数学の授業に好意的な生徒が多い。

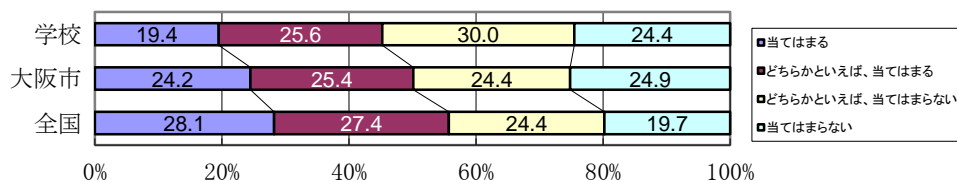
A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と式	11	69.7	68.6	72.7
	図形	12	63.0	60.8	64.6
	関数	9	57.7	54.7	58.7
	資料の活用	4	45.6	42.3	46.8

B 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と式	5	42.2	37.6	41.7
	図形	2	43.4	41.0	44.8
	関数	6	37.9	35.4	40.0
	資料の活用	3	41.1	37.1	42.2

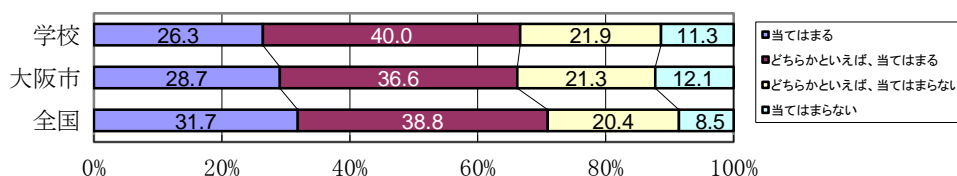


## 数学に関する「生徒質問紙」

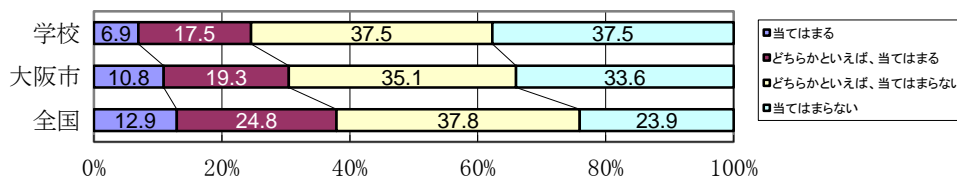
I 73 II 62 III 73
数学の勉強は好きですか



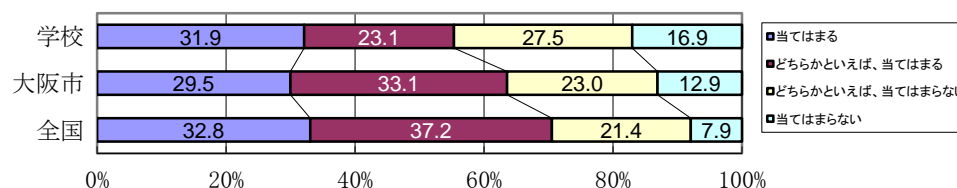
I 75 II 64 III 75
数学の授業の内容はよく分かりますか



I 78 II 67 III 78
数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



I 81 II 70 III 81
数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか



## 成果と課題

個々に応じた課題や授業後の宿題プリントなどの学習により、基礎的な事項の習熟ができています。このため数学の学習に好意的な生徒が多い。また、長期休業中の補習等で数学の興味や関心を育てる工夫を行い、発展的な問題に対しても積極的に取り組むようになってきた。しかし、資料を理解し活用する力は、まだまだ不足している。

## 今後の取組

数学でも、数学の勉強を好きになってほしい。基礎的な知識の定着のために繰り返しの学習が必要である。宿題を工夫し、家庭学習の習慣化に取り組んでいきたい。また、数学が好きな生徒を増やすため、生活に身近な題材や、興味関心を引く発展的な問題を楽しみながら取組ませるように工夫する。数学は、生徒により学習の到達程度が大きく異なるので、習熟度別の少人数学習やT.Tにより個々に応じた課題を与えることで学習成果を上げていく。

## 基本的生活習慣・自尊感情・規範意識

### 結果の概要

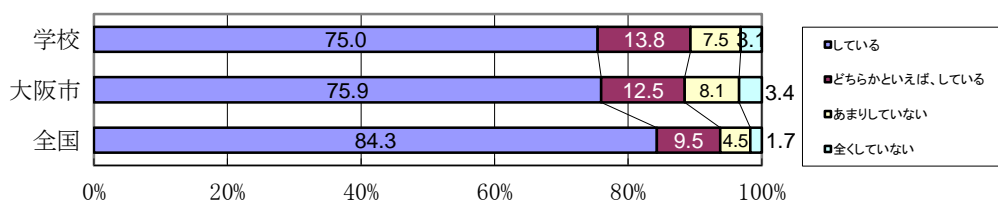
「朝食」をきちんと食べていない生徒の割合が多い。など、基本的な生活習慣が定着していない生徒が多い。

家庭での学習や読書の時間は少なく、インターネット(携帯電話・スマートホン等を含む)をする時間が長い。自己肯定感が低く、自分に自信が持てない傾向がある一方で、学校の規則をあえて違反しようとする意識は少ない。

### 質問 番号 質問事項

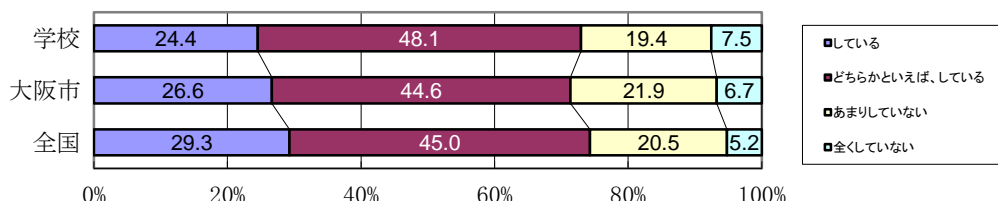
I 1 II 1 III 1

朝食を毎日食べていますか



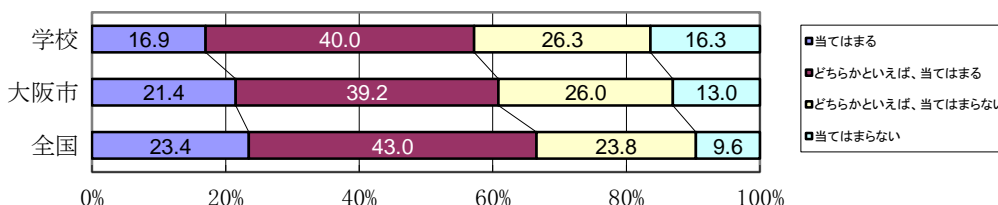
I 2 II 2 III 2

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



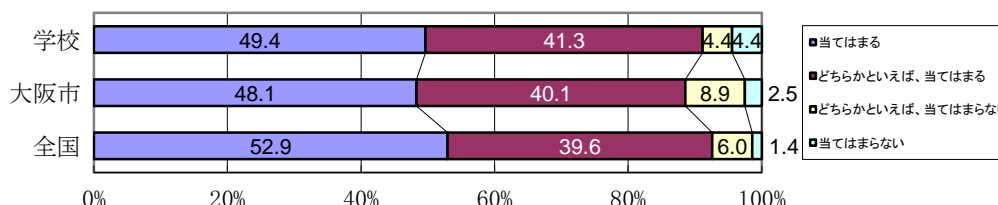
I 6 II 6 III 6

自分には、よいところがあると思いますか



I 44 II 41 III 45

学校の規則を守っていますか



### 成果と課題

おおむね家庭での生活習慣は出来ているが、全国に比べて自己肯定感が低い。生活指導は、毅然として丁寧に行っている。授業中は静かに集中して学習できている。しかし、積極的に生徒自ら学校のルールを守っていくために取り組んでいるわけではなく、教師の指導に従っているだけで、ルールの意味を理解し、自分たちの学校を良くしていくために意識的に行っているとは言えない。自信をもって積極的に取り組むことが必要である。

### 今後の取組

学級活動、学年行事、学校行事等に企画段階から生徒の意見を取り入れ、生徒自身で考え取り組んでいく活動をすすめ、自己実現の思いを高めたい。また、携帯メディアへに対応、ルールや倫理観の指導をする必要がある。スマホなどの使用時間を有効に使えるような指導を行い、勉強への意欲を高めたい。

# 家庭学習・読書・学びの質の改善：言語力の育成

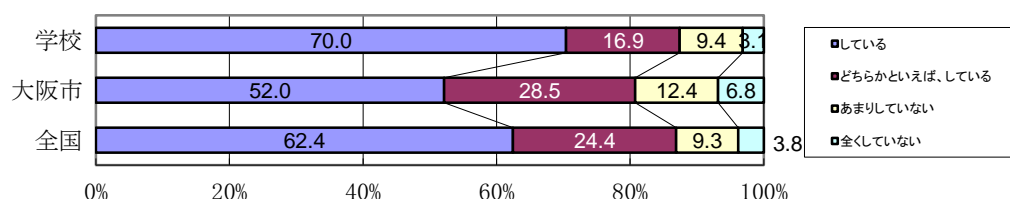
## 結果の概要

学校で出された宿題は、まじめに取り組んでいる。しかし、将来の夢を持っている割には、具体的に実現のために今できることを自ら考え行動しようとするわけでもない。学校生活の満足度が低く、友達に会うのが楽しみで登校する傾向がある。読書は、量・時間ともに少なく、地域や学校図書館を活用することも少ない。自ら進んで地域活動を体験し地域に貢献しようとする、地域の人材としての自覚が少ない。これは、家庭、学校、地域で自分が果たすべき役割に無自覚で消極的な面とらえることができる。

### 質問 番号 質問事項

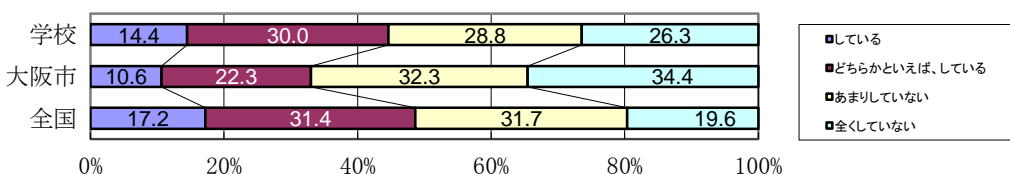
I 30 II 25 III 35

家で、学校の宿題をしていますか



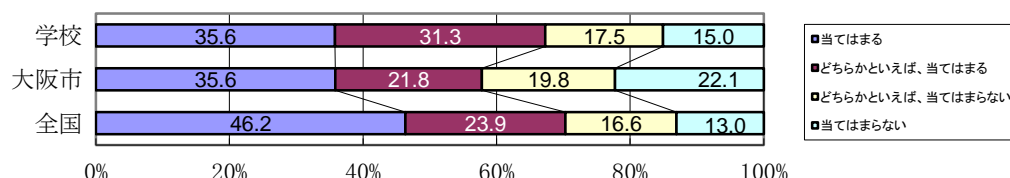
I 32 II 27 III 37

家で、学校の授業の復習をしていますか



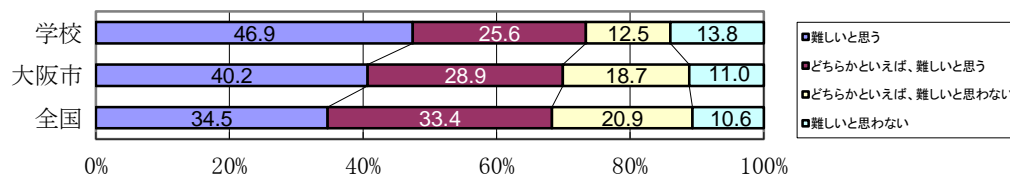
I 56 II 55 III 66

読書は好きですか



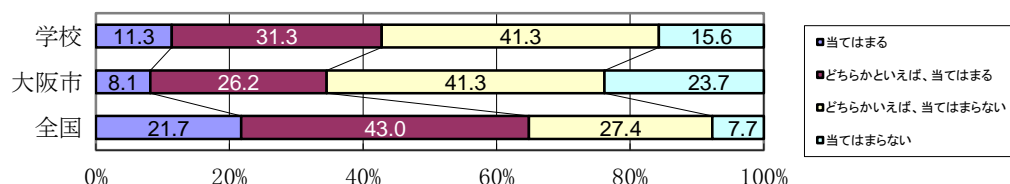
I 52 II 51 III 61

学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思いますか



I 50 II 48 III 57

普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか



## 成果と課題

授業後に、その日学んだ内容を宿題プリントとして提出させている。宿題の習慣化により家庭学習の定着を図っている。しかし、自ら課題を持ち計画的に学習をすることはできていない。学校元気アップ地域本部事業を活用し、学校図書館の活性化に取り組んでいる。そのため、読書が好きな生徒が増加している。しかし、まだまだ読書量、読書にかかる時間は少ない。

## 今後の取組

自ら考え計画し、行動することが苦手な生徒が多い。定期テスト期間の学習計画や長期休業中の生活の計画などを立てさせ教育相談や三者懇談の資料として活用する。自己肯定感の低さから自分の意見を相手に伝えることが苦手である。学級活動や学年行事に生徒の意見を生かす取り組みを進める。また、その際に自分の意見を周りに説明したり、相手の意見の良い部分を取り入れたり、全員が意見を表明するなど言語力の向上を図る。